



www.bartokdesign.com



神戸北野のバルトックデザインがお届けするイタリアンタイルは、社長である
イタリア人建築士ヤコポ・トリーニが建築士の父親とともに、
自らのプロジェクトのために独自に開発したオリジナル商品です。

この商品はステンドグラスやだまし絵のように、
空間を飾る芸術作品であると同時に建物構成上の一要素として機能します。

光沢感を放つイタリアンカラーのハンドペイントタイルは、
少し薄暗くなりがちなコーナー部分明るく幸福な空間へと変えてしまいます。

特徴

- ・ イタリア職人がハンドペイント製作
- ・ 他にはない表面の凹凸ある膨らみ感
- ・ 太陽光に当たっても退色変色なし
- ・ 耐久性に優れ屋外や水周りの使用も
- ・ 7種のサイズ展開
- ・ 自由自在な組み合わせOK

用途

- ・ 店舗装飾、住居の玄関・リビング・子供部屋・寝室・台所等の装飾、ホテル・マンションのロビー、その他公共施設の装飾
- ・ 表札、店舗看板





タイルはイタリア中部のトスカーナの丘陵地にある工房で、タイル職人たちが丁寧にハンドペイントで仕上げていきます。37種類揃った天然顔料は、見た目にも、ガラスのように透明感のあるもの、落ち着いたマットなものや様々、また、出来上がりのタイル表面の手触りも、滑らかなもの、ざらつき感があるもの、と各々が個性的。

貴方も一緒に世界にただひとつのタイルを作りませんか？



タイルの歴史



バルトックデザインのタイル製品の起源は実に 13 世紀に遡ります。その頃、北アフリカやスペインを本拠地とするサラセン人というアラブ系民族がアルビソラやサポーナといったイタリア北部の沿岸部の街を攻撃し侵略して、人々を恐怖に陥れていました。

しかしながら、この襲撃が残したのはいくつもの悪影響ばかりではなかったのです: 実際、アラブ系民族たちはヨーロッパに、化学や建築学、数学、天文学の分野で新技術や優れた知識を持ち込みました。そのひとつに“クエルダセカ”というタイルの技法があります。



“クエルダセカ”とは“乾いたロープ”という意味です: 旧式の技法では、オイルで湿らせたロープで絵柄の縁取りをし、陶器を焼いたあとに、そのロープが燃え切って、縁がきれいに残る仕組みでした。

このアラブ系民族特有の技法である“クエルダセカ”のお陰で、アルビソラとサポーナの街は幾何学模様を描くラジジョーニタイルに代表される釉薬を塗ったタイルの名産地となったのです。



弊社のタイルアーティストチーフ **Luciana Roccatagliata** は、アルビソラ出身で、その伝統技術を生かして色鮮やかなカップや絵皿、テーブルアクセサリを趣味で作って楽しんでいました。そんな中、彼女はトスカーナ州フィレンチェ近郊のテラコッタ職人と結婚したのです。フィレンチェもまた、有名な陶器の産地なのですが、そこでは主に素焼き製品を作っていました。

いずれにせよ、窯は自由に使える環境だったので、彼女はアルビソラの元々の釉薬技術とトスカーナの伝統的なテラコッタ技術を組み合わせた新分野の開発を試みたのです。テラコッタ職人のご主人が作る素焼きの壺に彼女は次々と華やかな色を添えていきました。



1995 年、若手建築家 **Iacopo Torrini** は、**Mrs. Luciana** に、このハンドペイントの技法を使った、インテリア装飾用のカラフルな陶板の実験制作を依頼しました。

1998 年、**Iacopo** は来日します。欧米にはない表札文化を目にした彼は、このハンドペイントタイルを使った表札の制作と紹介を考えます。建築家の彼は、カラフルなタイル表札をお家の顔として、通りに飾ってもらうことによって、日本中の元気な街並創りを目指したのです。

こうして、800 年余りの年月をかけて、“ラジジョーニ文化”は、異文化間の出会いと、人々の情熱と、新分野へ挑戦する探究心により、装飾タイルとして蘇ったのです。バルトックデザインは、このような歴史背景を持つ「イタリアンタイル」を今、異国情緒溢れる神戸北野の街から発信しています。

ショップ店舗、事務所



職人組/横浜



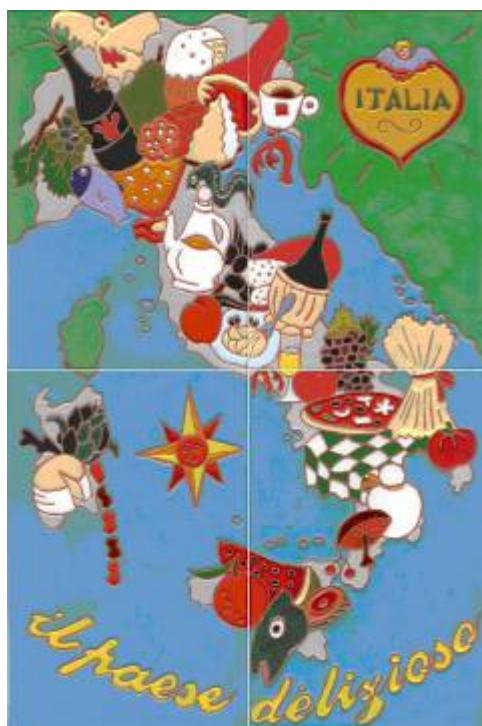
事務所/神戸



Albero/芦屋



レストランバンダー/宝塚



オステリアガウダンテ/神戸



Campagne/大阪梅田



ア・ビアント/静岡



La chance/神戸

色味を抑えたシンプルな内装が多い、美容室のアクセント要素に。天然顔料を使い、イタリア職人がハンドペイントで作製するタイルは、自然の緑溢れる店内に優しく馴染みます。





秋津幼稚園/東京

人が集う場所を、
イタリアンタイル
が明るく快活な
印象に仕上げま
す。オーダーデ
ザインのタイル
で、訪れる人に
個性をアピール
しましょう。



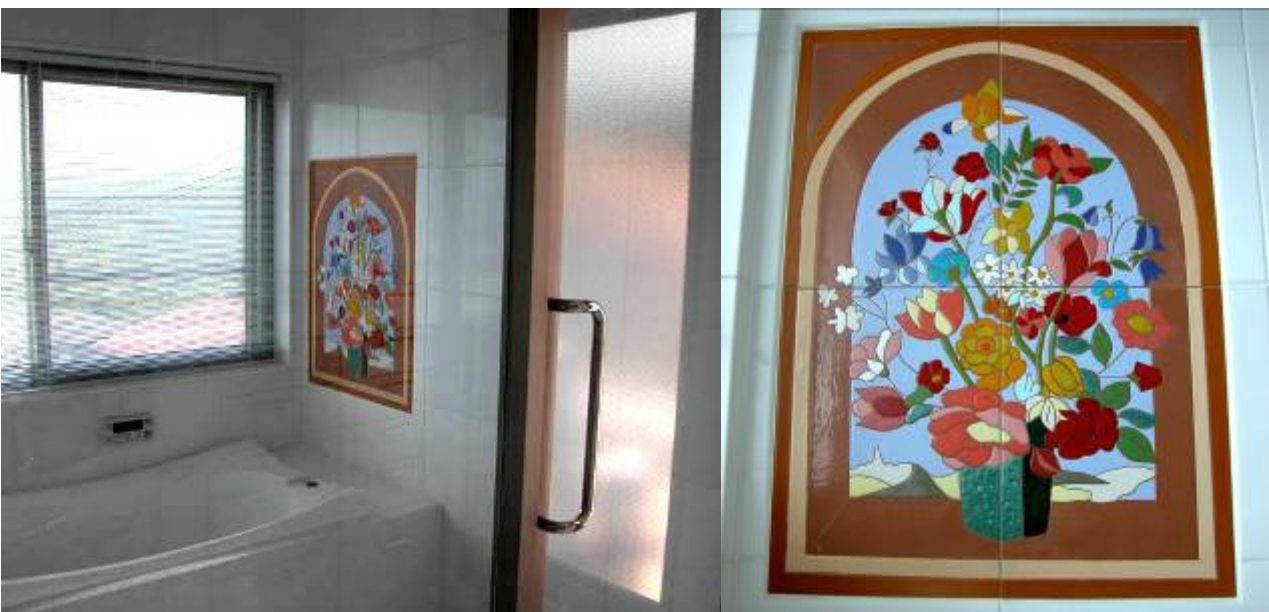
老人ホーム QUENA-GARDEN/熊本



マンション la Plume/芦屋



鮮やかな色調のイタリアンタイルをウッドフレームに入れると存在感と高級感が増します。また、小サイズタイルは、ウッドフレームに入れることで壁掛けも自由自在になり、絵画のように季節や気分に合わせて、お好みで掛け替えることができます。





小松崎様邸/静岡

カラーとデザイン次第で、イタリアンタイルはシックで落ち着いた雰囲気にも仕上がるから不思議です。イタリア職人も今では漢字表札の作製もお手のもの。表札はお客様を1番にお迎えするお家の顔だからこそ、住人はこだわりたいものなのです。



広々とした眺めのよいテラスが殺風景だとなんだか寂しいですね。外壁タイルの中にお気に入りのタイルアートを埋め込めば、美術館のような特別な空間が誕生します。イタリアンタイルは「装飾要素」だけではなく、「建材要素」も兼ね備えているから、使い勝手がよいのです。



ABCハウジング/神戸

お客様をお迎えするイベントに、バルトックデザインのスタッフが現地に出向いてお手伝いします。

例えば、ABCハウジング様は住宅展示場で、ご来場のお客様への抽選プレゼントにタイル表札を採用頂きました。現地では、タイル表札のサンプル・カタログ等を持参した弊社のスタッフが、ご来場のお客様との接客、タイル表札の説明・デモンストレーションを行いました。このイベントの目的は、1ヵ月後に完成し、イタリアから届くタイル表札を受け取りに、当選したお客様が再び現地に足を運ばれることを見込んだものです。

表面がぽっこりと膨らんだイタリアンタイルは、手に取るお客様に驚き、感激して頂いています。特に、こだわり派のお客様には、「探しても、ほしい表札が見つからなくて困っていた」というご意見を頂戴します。戸建住宅から賃貸マンションにお住まいの方まで、お客様の環境や条件に合わせて、適当なサイズを選択できたり、また、用途に応じて、アイアンフレームやウッドフレームと組み合わせて使えるところも好評を頂いているようです。



表札



イタリア職人の手作り食器



タイル工房のあるイタリアトスカーナの四季の風景を描いた絵皿の他、エスプレッソ用、カプチーノ・紅茶用のカップ&ソーサー各型、スープボウル等を用意しています。



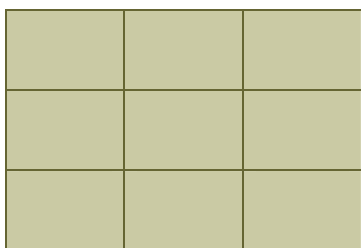
サイズについて



50x150	80x200	100x100	150x200	200x200	200x300	330x450	サイズ(mm)
7	7	7	8	8	8	12	厚み (mm)
103	129	364	400	700	800	3300	重量 (g)

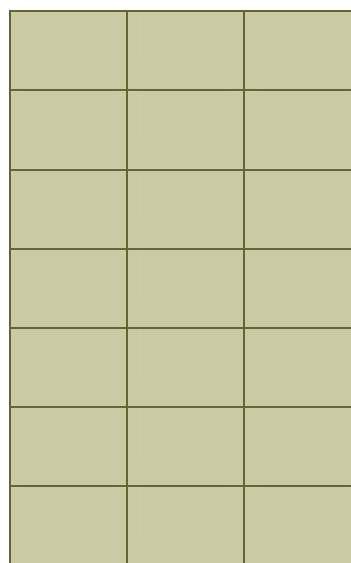
タイルのサイズは7種類。単品使いの他、必要なサイズを組み合わせることでタイルパネルを作製してください。

絵のサイズ 90x60cm:

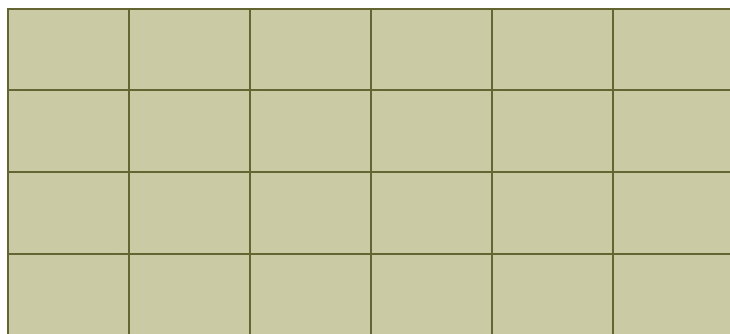


用途: リビングルーム、お風呂、トイレ等

縦長パネル90x120cm:



ワイドパネル 180x80cm:



用途: キッチン、寝室のヘッダー等

タイルの用途を広げる付属アクセサリ



アイアンフレーム:シンプル



アイアンフレーム:エレガント



ウッドフレーム各種

大型タイルパネルの取付け方



①まず、墨出しをします。



②接着剤を塗布します。



③角からL字に並べていきます。



④真ん中を埋めていきます。



⑤全部終わったらそのまま24時間以上放置します。完全に乾けば完成です。



単品タイルの取付け方



①変成シリコン接着剤 20ml ②変成シリコン接着剤 120ml ③変成シリコンコーキング

単品タイルを取り付ける際には、成分が「変成シリコン接着剤」と表示のあるものをご使用ください。

- ・ タイルのサイズが 15x20 より小さい場合は①を使用してください。
- ・ タイルのサイズが 20x30 の場合は②を使用してください。
- ・ タイルのサイズが 33x45 の場合は③を使用してください。



③タイル裏面に接着剤を塗布し、ヘラでのばします。④タイルを強力なガムテープで取り付け面にしっかり固定します。そのまま1日以上放置し、接着剤が乾いたのを確認後、ガムテープを取り外してください。

香川県出身。

幼い頃から日本の伝統文化に惹かれ、芸術的要素も備えた書道を始める。

その後、「都会」と欧米文化に憧れるようになり、大学時代の1年間をニューヨークで過ごす。この間、刺激的な街で「西洋」の芸術探索にも時間を費やすこととなる。

度々訪れるイタリアでは、現地ならではの材料を使った伝統的工芸に肌で触れ、そしてそれはその都度彼女の「デザイン」に影響を与え続けている。

「光」と「影」を意識した、滑らかなラインとソフトカラーで描く作品が中心。



Junko Hirao



イタリア・ヴェネツィア出身。

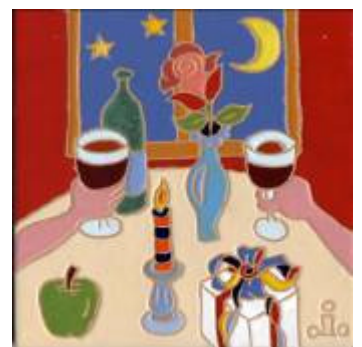
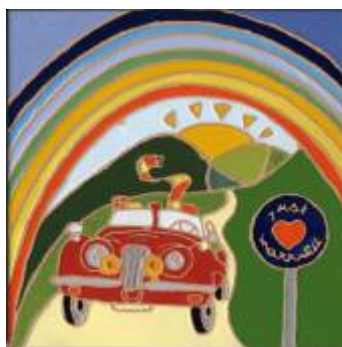
ヴェネツィア大学日本語学・文学科を卒業し、1998年に来日。仕事の傍ら、日本各地を旅行し、日本の文化を肌で感じ、大学時代から自分を呼んでいる誘惑を追い、この国に魅力を感じ続けている。

日本陶芸や写真撮影が趣味であり、日本人が見慣れている物をちょっと違った角度から観たり、日本人が忘れて行く「ガイジンから見た日本」を探し、自分で作る陶器や写真などに写そうとしている。

タイルのデザインの方でも、個性的・イタリア人らしさを込めた作品を紹介したいと思っている。



Cristian Cicogna



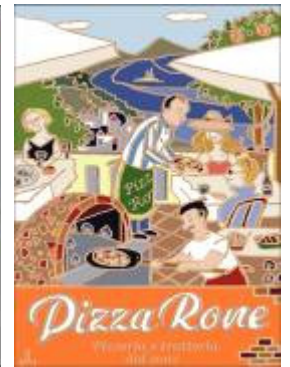
東京都出身。

女子美術大学洋画専攻卒業後、4年間の会社生活を経て渡伊。ローマの工房にてモザイク画や古代絵画の模倣技術等を学ぶ。

イタリアから享受した数々ものを肥やしにタイルデザインに励んでいる。お客様のイメージを形にするためには、デザイナーの想像力と優しさが重要だと考えている。毎日眺める看板や表札だからこそ、温かさに満ちた明るい雰囲気デザイン作りを心がけている。思わず顔がほころんでしまうようなチャーミングな作品を作りたい。



Sawako Muranaka



大阪府出身。

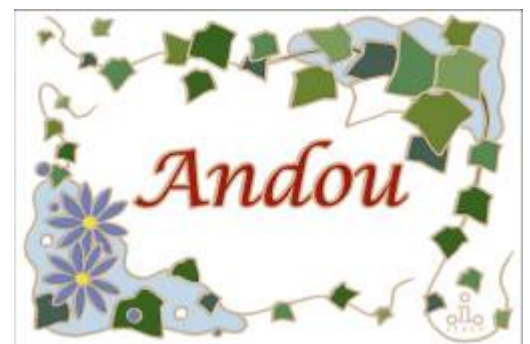
幼少期より絵画に親しみ、色への関心から化学に興味をもつ。

立命館大学工学部化学科卒業後、謀化粧品メーカー入社。その後、より直接的に「色・美」に携わりたいという思いから国内のステンドグラス工房へ転職。修行期を経て 2002 年、新たな制作技法を習得すべく渡仏。帰国後、ステンドグラス工房「アトリエ・アン」を主宰。

タイルデザインにおいては敢えて日本人らしい感性を大切にしながら、日常生活にさらりと溶け入るような飽きのこないものを作りたい。



Hiroyuki Yamawaki



(c)2000-2006 Bartok design Co. All rights reserved.

本カタログ内全ての画像、内容等、無断転載及び転用を固くお断りいたします。

〒650-0003 兵庫県神戸市中央区山本通り2-14-21 バルトック・デザイン

TEL:078-262-6811 FAX:078-262-7151

<http://www.bartokdesign.com>

pdt@bartokdesign.com